

トランプの中東政策の真意が読めないマスコミや学者達 担当石田 2025年9月27日

Trump 批判：米軍のイラン核施設爆撃（6/22）や、Israel 軍のカタール首都ドーハ空爆（9/9 ハマス幹部暗殺と釈明）を Trump の Israel 擁護、として media や学者は批判してる。

ミアシャイマー・シカゴ大学教授：核施設を爆撃したのは患者以外の何者でもないと批判。

近現代史研究の林千勝氏：Trump はウォール街に擦り寄った、とかリンカーンの心はバイデン並みと凡人扱い。リンカーンの靈言『アメリカが世界をリードして、日本が補佐するぐらいの体制が“いい世界運営ができる”』。自由貿易は必ずしも良くない、確かに『アメリカはイスラエルに肩入れし過ぎてる』とも言っているが『私は今アメリカの神になっている』林氏は言論界の天狗？新選組的ミス？その他ネット上ではガザ住民ジェノサイドを批判する記事で溢れ、世界規模の反イスラエル言論が増えている。エゼキエル戦争に向かう危惧。旧約エゼキエル書にある、イスラエルが敗れ、スペイン・イベリア方面に逃亡するが、敵方をも滅ぼす予言。

Charlie Kirk (Turning Point USA 創設者) 暗殺事件の真相：彼は福音派（Israel にイエスが再誕、世を救う。クリスチャンシオニスト）で、直前までイスラエル支持だったが、ネタニエフ（ユダヤ教シオニスト）を酷評する Tucker Carlson を TPUSA に登場させ、Israel 支持派から猛反発、直後に暗殺された。狙撃犯とされる T.ロビンソン（22歳、同室者 Trans J）は強固な反 TRUMP。net 上モサドの手引き説もある。Trump は急進左翼の犯行と見て、ANTIFAをテロ組織に指定。妻の Erika Kirk(カトリック信者)は犯人を許すと声明、米国の分断を阻止。

米右派の報道も、「真の敵は混乱から利益を得る隠れ Elite 層、つまり金融家、Media 複合企業、ハイテク独占企業、政治関係者、つまり DS だ」と福音派的な犯罪追及の姿勢。

以下 まで、Liberty9月号「何故彼らはトランプの中東政策の真意が読めないのか」より抜粋。日本左翼的言論界ではイスラム寄りの識者が圧倒的に多い。そうでない保守派であっても、個人の研究領域や経験の幅の中で発言している人が多く、以下に示す神意が見えていない。

『Iran は核兵器を作るのを急がないで下さい』『Iran と Israel 両国が保持したら、生き残るのは Israel だ』『Islam 国家は体制として、中国的な共産党一党独裁の体制に近い』『もっと偉い神は社会主義を滅ぼしたあと、このイスラム圏を改革せずにはおかないと』『Islam 教の運動は場合によっては二十世紀の共産主義運動、社会主義運動に代わるものになる』

Trump 氏は大きな流れの中で、時に手綱を締めたり緩めたりして地球神（世界精神）の示す方向に向かって進んでいることを理解する必要がある。Iran 核施設爆破も、革命防衛隊支配下にあり、彼らを不快に思っていた最高指導者ハメネイに通告して実施した。Israel に関しても、過激シオニストの極右二党と連立するネタニエフに配慮しての攻撃、「俺がやって見せるから、Israel は黙ってみておれ（行儀良くしておけ）」という狙い。謙虚に生きろ

Iran も Israel も国内は一枚岩ではない。複雑な情勢の中で、ゆっくり一つの方向に流れていく。時代の流れを読むべし。エリートだった「新選組」の失敗を避けよう。「幸福の法」講義

地球神の方針：『中露を分断し、ロシアを西側に引き込んだ方が良い』『Islam 世界はどんなに米国が嫌いでも、柔軟になって、多少欧米型の近代理論を入れるべし』『HS と Trump に降りる Inspiration の『震源』は同じところ（トス神）である。救世主降臨は日本である。